

家族と共に力を合わせて創りあげた会社で お客様に喜ばれる左官工事を達成し続ける



左官工事を中心に、タイル、外構、土木、エクステリアなど、各種工事を手掛けている『(有)竹葉プランニング』。「お客様に喜んでもらえるように」との想いで信頼を築き、地域に根差した業務を行う企業だ。本日は渡嘉敷勝男氏が、竹葉社長と奥様の裕美さんのお二人にお話を伺った。

どん底まで落ちるも

家族のために踏ん張った過去

渡嘉敷 御社では左官工事などを手掛けておられるそうで。現在に至るまでの竹葉社長の歩みをお聞かせ願えますか。

竹葉 (栄) 私は愛媛県宇和島市の出身で、もともとは別の業界で働いていました。それが仕事で広島に行ったときに、偶然、左官職人のある親方と出会いました。私が仕事を辞めるとい話をしたら、「辞めるんだったらうちに来いよ」と誘って下さって、それが左官職人になったきっかけですね。当時は20歳でしたが、実はもう結婚もしていたんですよ。その後は修業を積み、3人目の子どもが産まれるタイミングで、妻の故郷であるこちらの静岡に移ってきたのです。それが、

24歳ごろのことですね。

渡嘉敷 社長にとっては馴染みが無い土地ですよ。お仕事はあったのですか。

竹葉 (栄) はい。仕事の当時はあったんですよ。ただ、生憎その仕事も1年ほどで終わってしましましてね……。子どもが3人いましたし、生活するため、食べていくために、とにかく仕事を途切れさせるわけにはいきませんでした。初期投資の借金がまだ残っていましたから、マイナスからの再スタート。そんな状態なので、普通の職人では考えられないような苦勞もしましたよ。

渡嘉敷 と言いますと？

竹葉 (栄) 私にお金が無いことを知っているの、材料屋さんが材料を売ってくれなかったんです。保証人を立てて保証金を用意しても、「支払いはやっ

けるの？」などと疑われて。

竹葉 (裕) その保証金というもの、消費者金融で用立てたものだったんです。何社からも借りました。そうしないと、仕事はおろか生活することすらできなかったんです。

竹葉 (栄) どん底で、悔しくて泣いたこともあります。それでも、来る仕事は絶対に断らずに朝から晩までがむしゃらに働きた結果、どうにかお金が回るようになりました。信用も得られて、次の仕事に困らなくなったんです。それで、27歳の時には家を建てることもできたんですよ。

渡嘉敷 苦しい状況で、諦めずに踏ん張ることができた理由はなんでしょうか。

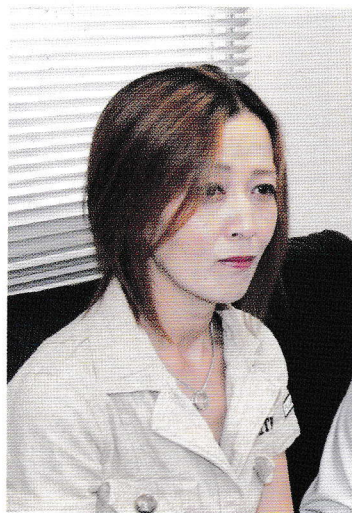
竹葉 (栄) やはり、家族ですね。家族を食べさせるために、つらいことにも耐

協調性を重んじる姿勢で、信頼を築く

新天地で仕事をする上で一番大変なのは、周囲の信頼を得ること。実際その点で竹葉社長は苦勞をしたというが、そうした困難の中でも確実に周囲との関係を築いていった。社長が心がけたのは、「相手が何を言いたいのか、思っているかを理解すること」。それさえ分かれば、喜んでもらえる良い仕事ができるからだ。そう考えるに至ったのは、広島時代の親方の言葉がきっかけだと言う。ある時、親方から「私は周りの人が動きやすいようにと考えて仕事をしている」と聞き、自らもそうするように心がけた。新天地でもその考えを貫いていると、現場監督は縁もゆかりもない社長のことを使い続けてくれたという。事業が軌道に乗ってきても決して驕らずに、謙虚な姿勢で周囲との協調性を重んじてきたからこそ、社長は多くの人から信頼され、多数の取引先を抱えるに至ったのだろう。「苦勞してきて良かった」との社長の言葉には、着実に築いてきた周囲との信頼関係に対する、誇りのようなものが感じられた。



代表取締役 **竹葉 栄二**



竹葉 裕美

えてきました。もし家族がいなかったら、田舎に帰っていたと思います。どうか借金も返済し終わり、その時は本当に嬉しかったですね。ただ事業が勢いに乗っていたので忙しく、感慨に浸る余裕はありませんでしたが(笑)。

竹葉(裕) でもご褒美として、ラスベガスに家族旅行に行ったんですよ。最初がどん底ただけに、その時は「この人と一緒になって本当に良かった。これからも付いて行こう」と、しみじみ思いました。

竹葉(栄) 妻には本当に苦勞をかけました。今があるのは、まさに妻のお陰です。取引先は約40社にまで増え、地域での信頼も得られています。静岡に来て20年、やっとここまでこられました。

過去があるから今がある—— 家族の力で、より良い仕事を

渡嘉敷 信頼を得られるお仕事の秘訣は、一体なんですか。

竹葉(栄) 完璧な施工に努めるだけではなく、挨拶や身なりなど、礼儀の面を

大切にすることですね。お客様にいかにお喜んでいたか、好んでいたか、次の仕事に直結してくるのです。実際、一度当社に発注して下さったお客様は、その後も継続的に仕事を寄せて下さいます。その繰り返して、お客様を増やしてやることができました。

渡嘉敷 スタッフさんは何名ほど?

竹葉(栄) 当社のスタッフが10名いて、あとは外注さんです。私たちの長男と次男と長女も一緒に働いてくれているんですよ。長男と次男は現場で、長女は事務として頑張ってくれており、家族の力が会社を支えています。いずれは、この会社を継いでくれれば嬉しいですね。私が

会社の土台を固めて、次の世代がより良い形に変えてくれるのであれば、それが一番です。

渡嘉敷 ではこの機会に、お子様方に何か伝えたいことがあればどうぞ。

竹葉(栄) 私が伝えたいのは言葉ではなく、「今の俺を見ておけ」ということですね。今の私をよく見て学び、私の全てを越える人間になってほしいのです。私は、かつてとても苦しい時を経験しましたが、あの時があったからこそ今があると感謝しています。子どもたちにも、あらゆる困難を踏破して行ってほしいと思いますね。

(取材 / 2014年8月)

「明日の生活すままならないような状況から、家族で支え合いながら歩んでこられたという竹葉社長。今でもとても家族仲が良いそうで、きっと共に困難を乗り越えたからこそ、絆が深まったのでしょうね。近々お孫さんが生まれるそうで、さらにご次男の結婚も控えておられるとか。ご家族皆さんで、これからもずっと幸せでいて下さいね」

ゲストインタビュー
渡嘉敷 勝男

